

# 世界遺産 百舌鳥・古市古墳群 —古代日本の墳墓群—

## も ず ふ り い ち 百舌鳥・古市古墳群とは

世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」は、古墳時代の最盛期(4世紀後半から5世紀後半)にかけて築造された、古代日本列島の王たちの墓群です。古代日本の政治文化の中心地のひとつであり、大陸に向かう航路の出発点であった大阪平野に位置しています。

本資産には、世界でも独特な鍵穴形で、最大のもは長さがおよそ500mに及び巨大な古墳を多く含み、これらと様々な大きさや形状の中小墳墓が密集して群を形成しています。

世界各地の多くの墳墓の墳丘が棺や室に盛土・積石しただけのものであるのに対して、古墳の墳丘は葬送儀礼の舞台として幾何学的なデザインを施し、埴輪などの土製品で飾り立てた建築的な傑作でした。



百舌鳥エリア

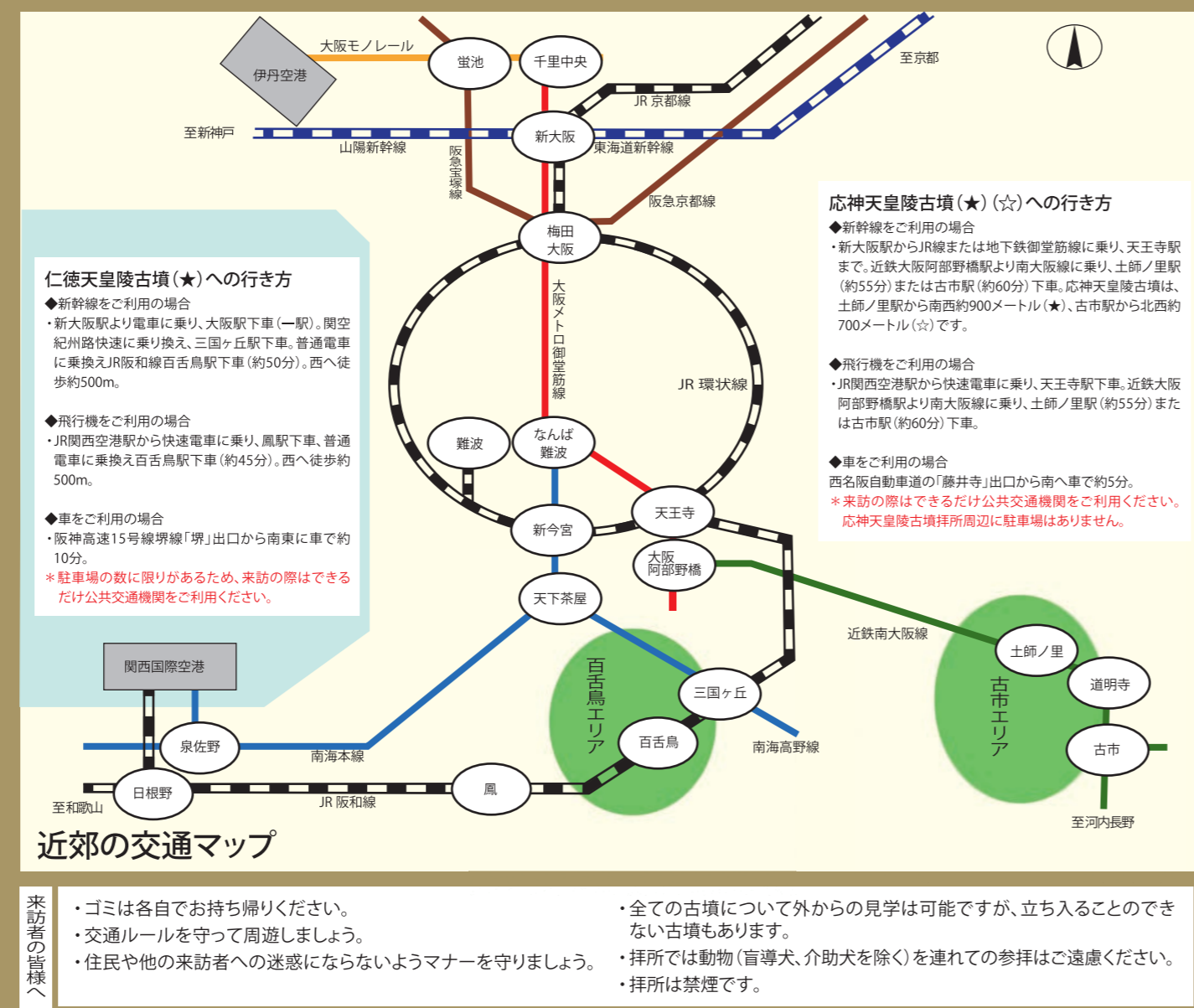
No.21 ニサンザイ古墳



百舌鳥エリア



古市エリア



編集発行 百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録推進本部会議(大阪府、堺市、羽曳野市、藤井寺市) 〒559-8555 大阪府住之江区南港北1-14-16 大阪府咲洲庁舎37階  
大阪府 府民文化部 都市魅力創造局 魅力づくり推進課  
電話06-6210-9742 ファックス06-6210-9316  
E-mail: info@mozu-furuichi.jp URL: http://www.mozu-furuichi.jp  
発行 令和元年(2019)12月

表紙写真 百舌鳥エリア

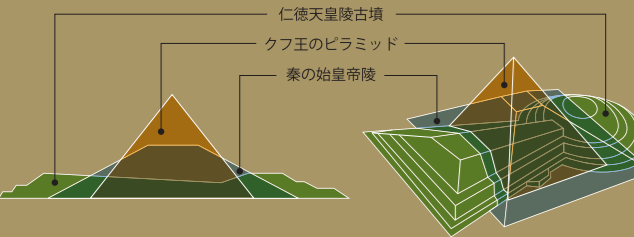
## 古墳とは

3世紀後半から6世紀後半の間、日本列島で盛んに造られた土を高く盛り上げた墳丘をもつ墓を「古墳」と言います。古墳には当時の身分の高い人が葬られていました。

墳丘は、周りの土を掘って積み上げて造られ、その斜面に石が敷きつめられました。掘られた部分は周りより低い濠になりました。

古墳の形は、上からみると鍵穴の形をした前方後円墳、帆立貝のような帆立貝形墳、ドーム型の円墳や四角形の方墳などバラエティーに富み、大きさも10m程の小さいものから、400mを超える巨大なものまで様々です。

古墳が盛んに造られたこの時代は「古墳時代」と呼ばれ、ここから日本列島で古代王権が形成されていきました。



	仁徳天皇陵古墳	クフ王のピラミッド	秦の始皇帝陵
全長	約486m	約230m	約350m
高さ	約35.8m	約146m	約76m
体積	約140万㎡	約260万㎡	約300万㎡



No.33-1 応神天皇陵古墳



No.26 仲姫命陵古墳



古市エリア

## 古市エリア

### —羽曳野市・藤井寺市—

古市エリアは大阪府の東南部、藤井寺市から羽曳野市にかけて、東西・南北各4kmの範囲に広がっています。墳丘長400mを超える巨大な前方後円墳の応神天皇陵古墳(国内第2位)をはじめとする26基24件の古墳が世界遺産の構成資産として選ばれています。

世界遺産 World Heritage Site of Osaka  
百舌鳥・古市古墳群  
Mozu-Furuichi Kofun Group